

産科医療補償制度 第 99 回原因分析委員会 議事要旨

日時：2022年3月10日（木）16時00分～17時25分

場所：公益財団法人日本医療機能評価機構 会議室

出席者（委員）：石川浩史、茨聡、上塘正人、川田綾子、楠田聡、佐藤昌司、
下屋浩一郎、鈴木俊治、鈴木利廣、関沢明彦、高田昌代、豊田郁子、
前田津紀夫、馬目裕子、宮澤潤、村越毅、吉田幸洋（敬称略）

議事概要：

- 1) 原因分析委員会における報告書の確認・承認状況等について
 - 2022年2月末時点で累計3,143件の原因分析報告書が承認されたことが報告された。コロナ禍の影響で減少した報告書の作成・送付件数はコロナ禍以前の水準に戻ってきたが、一方で報告書送付までの日数が長くなっていることが課題であり、その短縮に努めていくこと等が報告された。
 - 同一分娩機関での複数事案目の原因分析の結果、同じ診療行為等において医学的に厳しい評価が繰り返された場合に一層の改善を要請する「別紙（要望書）」対応について、2022年2月末時点の累計実施件数114件、改善要望項目としては「胎児心拍数陣痛図の判読と対応」が最も多いこと等が報告された。また、日本産婦人科医会との連携取組みとして、分娩機関からの要請を受け、2021年12月に医会の理事が同分娩機関を訪問し実施した改善取組みの支援内容について、対応した委員より報告された。
- 2) 原因分析報告書の公表・開示および原因分析のデータ等を活用した研究等の状況について
 - 原因分析報告書要約版は、現在、同意取得を行うことなく全件一律に公表を実施していること、および、以前同意取得を行った時期に不同意の意思表示を受け未公表としていた要約版については、改めて公表に理解を求める取組みを行い、取組み継続中の数事例を除き公表済みであることが報告された。
 - 原因分析報告書全文版（マスキング版）については、開示方法を変更した2015年11月以降2022年2月末までに13件の利用申請で延べ3,241事例の報告書を開示したこと等が報告された。
- 3) 原因分析に関するアンケートについて
 - 一定の期間に原因分析報告書を送付した保護者と分娩機関を対象に、2021年10～11月に実施された原因分析に関するアンケートの主な結果が報告された。依頼状を郵送しweb上のサイトで回答してもらう方法で初めて実施されたが、回答率は、保護者で68.9%、分娩機関で63.8%であり、いずれも、紙ベースで実施した前回より上回ったことが報告された。
 - 回答結果として、「原因分析が行われて良かったですか」という質問に対し、「とても良かった」「まあまあ良かった」を合わせた回答が保護者で71%、分娩機関で85%とともに高かったこと等が報告された。
- 4) 「今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項」に用いる表現の見直しについて
 - 原因分析報告書の「今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項」に用いる表現について、推奨レベルの段階の絞り込みや使用法の整理を行う方向で見直しを進めることについて審議され、了承された。

以上